

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300682
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム とも
訪問調査日	平成20年2月13日
評価確定日	平成20年3月13日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670300682
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム とも
所在地	鹿屋市田崎町1307-1 (電話) 0994-42-6860
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年2月13日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年4月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16人 常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 10.2人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 97 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田内科 西の原歯科
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地から少し離れた住宅街の一角に建てられており、静かで穏やかな環境である。開設から5年を経て、ホーム内のケアサービス方針が確立し、地域住民や諸機関との信頼関係も着実に築かれてきている。また、法人全体としての研修体制が充実しており、新人から段階に応じて学べる環境にある。今後は、更に地域に向けての活動を充実して行く段階にある。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特になし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議等で今回の評価について話し合わせ、その意義を理解し改善に向けての具体策の検討など、職員全員での意見交換が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、評価結果やホームの現状及び今後の取り組みについて報告がなされている。また、参加者との意見の交換もできており、会議での検討事項等についても、解決に向けて共に動き、よい結果となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、ホームや公的機関の苦情窓口が明示されている。また、意見箱の設置をはじめ、家族会や運営会議の際に意見を聞く機会を設けている。ご家族等の声が多く表出され、ホームの運営に反映されるように努力を重ねている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ加入しており、地域の活動にも積極的に参加している。地域の情報は、有線放送で確認している。ホーム主催の夏祭りには、地域の老人会をはじめ多くの住民が参加しており、日頃から近隣の方々の訪問も見られ、地元の人々との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念を作り上げている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務において職員の目に留まりやすいように、理念が掲示されている。また、朝礼やミーティング時に理念に基づいたケアであるか確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しており、地域の活動にも積極的に参加している。地域の情報は、有線放送で確認している。ホーム主催の夏祭りには、地域の老人会をはじめ多くの住民が参加しており、日頃から近隣の方々の訪問も見られ、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で今回の評価について話し合わせ、その意義を理解し改善に向けての具体策の検討など、職員全員での意見交換が行われている。前年度の評価結果は玄関に掲示されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、評価結果やホームの現状及び今後の取り組みについて報告がなされている。また、参加者との意見の交換もできており、会議での検討事項等についても、解決に向けて共に動き、よい結果となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃からケアサービスに関して行政担当者との相談がされ、連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「とも便り」や2ヶ月に1回の担当者便りにて、写真等を多く利用した現状報告がなされている。また、面会等を通しての関わりもできている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、ホームや公的機関の苦情窓口が明示されている。また、意見箱の設置をはじめ、家族会や運営会議の際に意見を聞く機会を設けている。ご家族等の声がより多く表出され、ホームの運営に反映されるように努力を重ねている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者、ご家族へ大きな影響があることを十分認識している。利用者、ご家族の立場を考慮した職員の異動に加え、やむを得ない離職や異動時は引継等に配慮がみられる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の研修プログラムに沿った研修実施とホーム独自の研修、更に外部研修にも多くのスタッフが受講できている。また、研修終了後は報告書が提出され、職員間での閲覧ができるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修参加や法人内のホームとの交流はあるものの、外部のホーム間で行き来する機会は今のところ持たれていない。	○	同業者との相互訪問や意見交換の機会を持ち、お互いの良いところを受け入れてサービスの質の向上につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族にホームの見学をしてもらったり、スタッフが自宅訪問を繰り返し行うなどすることで、安心して利用できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	そば打ちや漬物作りなど昔ながらの作業を取り入れ、利用者から楽しく学ぶ機会を作っている。また手を出し過ぎない介護を心がけ、その人らしい生活が送れるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の自宅訪問や本人、ご家族との面談の中から本人の思いを引出している。更に思いの聞き取りの方法も検討しながら、より本人の思いに近づけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員が参加したサービス担当者会議を開催している。また職員間で、日々の生活の中で気付いたことを話し合う機会を持ち、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、状況変化あれば随時見直しだが、日常の経過記録や職員、ご家族の意見も踏まえて実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が受診に対応できないときは職員で対応し、医療機関との連携を図っている。またご家族に宿泊を呼びかけ、多機能性を生かした取り組みを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や緊急時には、通院の支援や電話連絡などで適切な医療管理が受けられるようにかかりつけ医と連携を図っている。緊急持ち出しファイルを利用者毎に作成し、急な受診の際に、医療機関との情報共有がスムーズに行えるように準備している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「看取り介護の指針」の説明、意思の確認及び同意書の作成が行われるが、その後も利用者の状態変化に応じて、ご家族及びかかりつけ医と共に話し合いを行い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損ねるような声かけになっていないか、日々お互いに確認し、ゆとりを持ってケアが行えるように気を付けているが、職員間で差があり十分とは言えない。個人情報については同意書を取り、外部の目に触れることがないように適切に管理を行っている。	○	誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本であり、既に研修等で意識の向上を図っているが、更なる研鑽と徹底に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間など、ホーム側の予定を押し付けることなく、一人ひとりの生活ペースに合わせて日々の生活が送れるように支援している。また職員は、言葉や素振りから本人の思いを引き出し、本人の希望により近い生活が送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や配膳など、職員の支援の下に自分のできることを自分のペースで行っている。食事中は職員と利用者が共に言葉を交わし、笑い声もあり明るい雰囲気を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を確認し、希望に沿って入浴できるように支援している。入浴拒否がある利用者に対しては、言葉かけの方法を職員間で検討し、タイミングを見ながら気持ちよく入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活に変化を感じることができるよう、そば打ちや植物を育てたり、近所の飼い犬や飼い猫の訪問を楽しみにされてる方などが居られる。年間行事を通して、ご家族や地域の方々も多く参加される。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前は広い敷地であり、その中での活動は自由に行われている。また、敷地外に地域の方から無償で畑を提供してもらい、野菜の観察や草取りなどが利用者と共に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることが、利用者にとって不安感の増強につながるという弊害があり、日々の状況確認を行っていくことで対応可能であるという共通意識がある。利用者が敷地外を歩かれる姿を見て、近隣の方が声をかけてくださるなど、連携体制も整っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練の他に、自主訓練を毎月実施している。また、災害時の対応策に関しても、近隣者や運営推進会議を通して、随時検討し改善がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導助言の下、1日の摂取カロリーの目安を設定している。食事摂取量は、毎食、利用者毎に記録している。水分摂取量に制限や調整が必要な方に関しては、個別にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口にはベンチや季節の花があり、心地よさを感じさせる。居間は広々とした空間であり、ソファが置かれて思い思いに過ごせるような配慮が見られる。また、キッチンが中心部にあり、調理の音、匂いなどが感じられ、利用者が自然に集まるような雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、本人、ご家族と相談して使い慣れた家具や鉢植えなどを持ち込んでもらい、住み慣れた環境を継続できるように支援している。		